

# 平成30年第5回（12月）上越市議会定例会

## 厚生常任委員会資料【所管事務調査】

上越市版オレンジプランの策定について

上越市版オレンジプランの策定に当たって	・・・・・・・・	1
上越市版オレンジプラン（案）の概要について	・・・・・・・・	2

## 上越市版オレンジプランの策定に当たって

### 1 趣旨

当市においては、高齢化の進展に伴い、認知症高齢者の増加が顕著となり、介護認定データから認知症状により日常生活に支障が生じる「日常生活自立度Ⅱ a」以上の認知症の人は、平成 30 年 10 月 1 日現在、9,346 人となっており、自然推計によると平成 37 年(2025 年)には 1 万人を超える見込みである。

当市では、この間、介護保険事業計画に基づき、認知症に関する様々な取組を展開してきた。今回、「上越市版オレンジプラン」の策定に当たり、認知症に関する課題を整理し、新たに認知症の人やその家族の声を反映した取組を一体的・効果的に実施することにより、市民が認知症を正しく理解し、全ての認知症の人が安全・安心な生活を送ることができる状態を目指すこととしている。

また、認知症の発症及び重症化予防の取組を強化し、認知症により日常生活に支障が生じる認知症高齢者数を平成 37 年度では 1 万人以下とすることを旨とする。

<参考> 認知症高齢者数（日常生活自立度Ⅱ a 以上）の推移と推計（各年 10 月 1 日）

区 分	平成 27 年	平成 30 年	平成 32 年	平成 37 年
65 歳以上人口	58,761 人	61,020 人	61,909 人	61,336 人
高齢化率	29.6%	31.5%	32.4%	33.6%
認知症高齢者数	8,822 人	9,346 人	9,579 人	10,104 人
65 歳以上人口に占める割合	15.0%	15.3%	15.5%	16.5%

### 2 計画期間

平成 31 年度～37 年度（国の新オレンジプランの戦略に合わせ、必要に応じて改訂する）

### 3 協議機関

上越市介護保険運営協議会

### 4 スケジュール

平成 30 年 10 月	平成 30 年 12 月	平成 31 年 2 月	平成 31 年 3 月
介護保険運営協議会 ・概要案協議	所管事務調査 ・概要案説明	介護保険運営協議会 ・オレンジプラン （案）協議 所管事務調査 ・オレンジプラン （案）説明	市民啓発講座 ・上越市版オレンジプランについて ・認知症対策の最前線 ・稲作ケア など オレンジプラン策定

# 上越市版オレンジプラン（案）の概要～当事者や家族の声を反映した今後の取組と目標～

<4つの施策の柱>

<当事者や家族の声>

<今後の取組> 継：継続 充：充実 新：新規、開始年度

<目標>

## (1) 認知症の正しい理解の啓発と認知症予防の取組の充実

これまでの取組	課題
①認知症サポーター養成講座の開催	・認知症の理解及び予防についてより多くの
②市民啓発講座の開催（稲作ケア、認知症対策）	市民への啓発が必要
③認知症予防の講座の開催（地区単位で開催）	・当事者、家族の思いを理解できていない

<当事者の声>  
 ・馬鹿にしたり、年寄り扱いして欲しくない  
 ・家族に叱られてばかり。家族に申し訳ない。  
 ・何度も同じことを聞いても怒らないで欲しい。  
 ・何でもできるのにやらせてくれない。あれもダメ、これもダメと言われる。全てダメな人間という目で見ないで欲しい。  
 <家族の声>  
 ・認知症の親のこと家族のこと隠したい。  
 ・周りの目が気になる。  
 ・認知症に対してマイナスイメージが強い。

充 認知症サポーター養成講座の拡充（年間 2,300 人）  
 充 認知症予防の取組の充実  
 充 市民啓発講座の開催（年 2 回）  
 新 H31～国作成当事者の声を反映したガイド、市作成の当事者・家族の声の活用  
 新 H31～地域包括支援センターの実態把握訪問や地域での講座で啓発チラシを配付  
 新 H32～市の健診等で物忘れチェック→各種相談、医師の無料相談会、医療機関受診等へつなげる

・市民が認知症の人や家族の思いを理解することができる  
 ・市民が認知症に関心を持つことができる  
 ・市民が病気である認知症について理解し、認知症の予防に取り組んでいる（認知症高齢者数：H37年度 1 万人以下）

2025 年  
目指すべき姿

## (2) 認知症の状態に応じた医療・介護等の適切なサービスの推進

これまでの取組	課題
①認知症初期集中支援チームによる早期からの相談支援体制	・当事者、家族の希望に合ったサービスが必ずしも十分に提供されているとは言えない
②認知症地域支援推進員の配置（医療や事業所の連携支援）	
③医療と介護の連携強化（ICT、認知症ケアパス、認知症地域連携パス、もの忘れ連絡箋）	
④成年後見制度の普及	
⑤介護保険サービスの提供	

<当事者の声>  
 ・仕事を頑張りたいけど、クビになるかも。  
 ・外に散歩や草取りをしたいが、家族に止められた。趣味活動を続けたい。楽しみたいが、うまくいかない。  
 ・私は、できることが多い。自分のことは自分でしたい。家族が役割を少なくしてくれて、今は楽しんでいる。  
 ・自分ではまだまだやれているけど、周りには必要以上に心配してくる。

継 認知症初期集中支援チーム、医療と介護の連携強化、介護保険サービスの提供  
 充 認知症地域支援推進員の活動の拡充  
 充 成年後見制度の周知の強化  
 新 H31～地域包括支援センター職員向けの相談対応力向上研修会の開催  
 新 H33～認知症の人の雇用促進に取り組んでいる事業所を優良事業所として表彰  
 新 H34～稲作ケア・オレンジレストラン、農産物・加工品などの販売等

・認知症の人や家族が認知症の状態に応じた適切な医療や介護等のサービスの提供や支援を受け、安心して過ごすことができる  
 ・認知症の人を理解し、雇用などにより支援を行っている事業所が増える（市内事業所の 1 割）

## (3) 認知症の人と家族への支援の推進

これまでの取組	課題
①認知症カフェの開催（地域自治区ごとに開催）	・身近で気軽に集える場所や就労・活動等について相談できる場が少ない
②サロンの開催（地域自治区ごとに開催）	

<当事者の声>  
 ・認知症になったのか自分で判断できない。  
 ・心の中に霧がかかっているみたい。  
 ・できていたことができなくなってショックだ。  
 ・なかなか病気を受け入れできない。  
 ・行きたくないけど、デイサービスに行かされる。  
 <家族の声>  
 ・できないのにできるという。対応の仕方がわからない。  
 ・物忘れなのか、認知症なのかわからない。  
 ・デイサービス以外に行く所、居場所がない。

継 地域支え合い事業を実施し、居場所を確保し、サロン等での役割を創出する  
 充 認知症カフェの開催及び内容の充実  
 充 気軽に相談し集える場の提供（事業所、公共施設）  
 新 H31～認知症の人への接し方講座の開催  
 新 H31～認知症なんでも相談窓口の開設  
 新 H33～夜間に家族の集いを開催  
 新 H34～認知症の人の就労支援・活動支援の窓口の開設

・認知症になっても気軽に集える場所がある  
 ・認知症になっても活躍する場がある  
 ・地域で認知症に関して気軽になんでも相談できる場がある  
 ・認知症の人に対し、認知症の人の家族や支援者が不安なく接することができる

## (4) 認知症の人とその家族にやさしい地域づくりの推進

これまでの取組	課題
①認知症高齢者の見守り支援、見守り体制の構築	・認知症高齢者を地域で見守る体制が不十分

<家族の声>  
 ・夫が認知症になって世間に気付かれないようにしようと思っていたが、本人に無理をさせていることだと気付いた。夫が認知症だと言えるようになってから夫の行動も理解しながら介護しようと思うようになった。  
 ・私の親は自慢の親なので、認知症だと認めたくない。

充 認知症高齢者の見守り支援の強化と研究  
 新 H32～認知症の人が自らの意思に基づいた日常生活・社会生活を送れるよう地域ぐるみで支援する  
 新 H34～認知症徘徊模擬訓練の実施

・認知症になっても不安なく地域で生活することができる  
 ・地域住民が認知症を理解し、地域ぐるみで見守り、支え合いを行っている

市民が認知症を正しく理解し、全ての認知症の人が安全・安心な生活を送ることができる状態